

メコンユースフォーラム (Mekong Youth Forum)

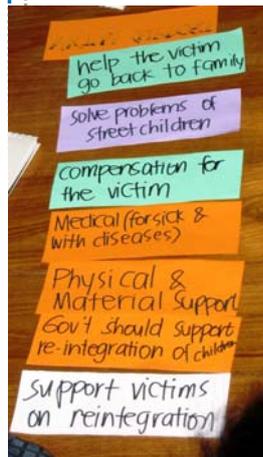
10月24-29日の6日間、タイ国政府、ILO、World Vision、Save the Children UK、UNIAPの共催で第3回メコンユースフォーラムが開催されました。メコンユースフォーラムは2004年のMekong Children's Forumに始まり、以後3年ごとに開催されてきており今年で3回目を迎えました。

カンボジア、ラオス、ベトナム、ミャンマー、中国、タイの6カ国から5人ずつ若者が招待され、さまざまな活動が行われました。参加者は各国のナショナル・フォーラムで選ばれた子どもたちで、中には人身取引の被害にあった子どもも含まれていたそうです。

プロジェクトのスタッフに10月27日1日だけ参加してもらいましたので、その報告に基づいてフォーラムの様子をお知らせします。この日は、各国の若者たちはフィリピンのPETA (Philippine Educational Theater Association)によるアートで表現するセッションとMTV Exit 関係者を講師として、啓発用キャンペーンを皆が考えるセッションなどが行われました。子どもたちは自分たちで考え、答えを導き出していくプロセスを学んだそうです。

このようなアートでの表現に慣れていない国の

子どもたちもおおり、とまどいながら参加していたようですが他国の参加者に助けられながら作業を進めていたそうです。これこそがフォーラムのダイナミックスと言えます。



フォーラムの目的は参加者が一緒に行動計画を作成し「メコン地域の若者たちの声」として最後の2日間に参加した各国の政府高官に伝えることにありました。フォーラムに参加した政府高官はCOMMITのメンバーであり、メコン地域における人身取引対策のフォーカルポイントでもあります。そのような政府関係者に若者のニーズを理解してもらうのは重要なことです。また、人身取引被害者に占める子どもの数が多いことから、当事者である子どもの意見を政策に反映させるのは重要と言えます。

メコンユースフォーラムの詳細はHPご参照：

<http://www.mekongyouthforum.com/mekong-youth-forum-human-trafficking>